

令和5年度 流山市立おおぐろの森小学校 学校評価について

【学校評価の考察】

調査の結果から、「満足」と回答されたものを「5」、不満と回答されたものを「1」として得点化した場合、保護者、児童、教職員すべての平均が4以上と回答された質問は16項目あり、概ね良好な結果となりました。本校の学校教育目標である「未来を創り出すわたし！ 見る人からつくる人へ！ みんなでつくりよう豊かな未来！」のもと、おおぐろの森小スタイルを積み上げてきた教育活動に、一定の評価をいただいたと考えております。しかしながら、昨年度の値より低くなった質問項目もあり、今年度の学校体制や教育環境、指導内容等について、改善が必要な点もあることがわかりました。改善が必要な項目については早速検証し、今後も学校教育目標の達成に向け、教職員一丸となって取り組んでまいります。ご協力ありがとうございました。

(1) 学校内での児童の様子について<項目1・2>

児童が学校へ登校することが楽しみになるよう、日々教職員が指導支援を行ってまいりました。教職員は児童一人ひとりをたくさん称賛し、教室での生活に安心感と所属感、存在感を感じさせられるよう声かけ等を行ってまいりました。また、学校行事等の諸活動についても、児童の心身の成長に真に有効なものを精選しながら、適切に実施してまいりました。教育活動全体を通して、児童一人ひとりが友達と関わりながら、思いやりの心の育成やコミュニケーション能力の向上といった人間性の育成を図れるよう指導を行い、学習については、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の三観点を評価し子ども達にどういった力が身に付いたかを、教職員は日々教材研究を行いながら指導の改善を行ってまいりました。

質問の結果について、質問1の「児童は楽しく学校に通っている」については保護者様からは4.4以上の評価をいただきましたが、昨年度の結果を下回る結果となりました。また、質問2の「児童は授業内容を理解し、楽しく授業を受けている」についても同様に昨年度の結果を下回りました。授業改善について、本校は算数科に焦点を当て、埼玉大学教育学部の二宮教授を講師として招き、「子どもの主体性・思考力の育成」を研究主題として研修を行ってきました。研修で学んだことを他教科へも応用できるよう、教職員が個々の授業力を高め、児童一人ひとりに確かな学力が定着し、学校が毎日楽しく通えるよう、授業改善に取り組んでいきます。

(2) 学校外での本校児童の様子について <項目 3・4>

あいさつやマナーについては、教員が道徳の時間等をもちいて指導を続けているだけでなく、生活委員会等児童が主体となり、あいさつ運動を行うなど啓発運動を行いました。

質問3の「児童はきちんと挨拶ができています」については、保護者の結果は昨年度と同等でしたが、児童の結果としては下がっていました。一方教職員の結果は上がりましたが、まだ改善の余地がある結果と捉え、すすんで挨拶のできる児童の育成に努めていきます。

質問4の「児童は地域でマナーがよい」については、昨年度に比べ下がった結果となりました。地域での生活におけるマナーについては、道徳や学級活動を含め、学校でのあらゆる教育活動を通じて、指導を行ってまいります。また、学校内での姿が地域の姿にも生かされるよう指導を重ね、今回の結果を各家庭や地域と共有し、学校と家庭と地域が一体となって子ども達を育てていけるように、連携の強化を図ってまいります。

(3) 教師の支援について <項目 5～10>

質問6の「教師は児童の個性を認めている」では、保護者、児童、教職員ともに4.4以上の評価となりました。これからの社会は、個々の多様性を認め、互いに尊重しあうことが重要となってきます。学校現場においても、未来を担う子ども達について、一人ひとりの個性の伸長のため、画一的な指導ではなく、個々の特性に応じた声かけや指導支援を引き続き行ってまいります。また、本校の学校教育目標でもある「みる人からつくる人へ！」を具現化するための一環として、教職員と子ども達が協力し、本校の特色の一つであるくろもりチャンネルの動画作成にも取り組んでいます。学校行事の活動の様子だけでなく、学級の様子等、子どもが主体となり立案や撮影等の活動を続けてきました。子ども同士が協力し達成感や満足感を感じる体験を重ねたことで、一人ひとりの考え方や感じ方が違っていても個性として認め、自他を大切にできる心の育成につなげてきました。今後も、個々の個性を認め、子ども達一人ひとりが「学校に行くのが楽しい」「友達と会いたい」等意欲や充実感をもって生活できるように努めていきます。

質問9の「教師は効果的に ICT 機器を使っている」について、「タブレットは文房具！ 学びの補償と個に応じた学習環境の整備」を合言葉とし、タブレット端末を用いての学習を行ってまいりました。動画や画像など、集めた情報や資料を提示したり、児童の意見や考えを全体で共有したりするなど、タブレットや ICT 機器を効果的に活用することで、学びを深める授業作りに取り組んでいます。結果を見ると昨年度から保護者、児童、教職員すべてで値が下がりました。日々

の授業でタブレットを活用する場面が多くありますが、児童の考えを共有するなど、授業が主体的で深い学びとなるよう活用を続けています。今後は児童の学びに、さらに効果的に ICT 機器を活用できるように教職員で研究校の実践を学ぶ等してまいります。

(4) 学校について<項目 1 1～2 1>

質問 1 1 の「学校の教育への姿勢や雰囲気はよい」では、保護者、児童、ともに 4. 4 以上の評価となりました。開校から 3 年目となり、学校という既成概念にとらわれることなく、校長の指導のもと児童や地域の実態に応じた教育活動を展開できるよう努めてまいりました。保護者の願いや地域の事情に応じ、かつ個性の伸長や確かな学力が身に付くように、本校の特色を生かした教育活動を行ってまいりました。いつでも学校に参観可能であるといった開かれた学校づくりの活動に一定の評価をいただいたと感じています。昨年度の結果と比較すると値が下がったことについて、分析を行い、今後もさらに教育への姿勢や雰囲気の向上を目指し、改善について検討してまいります。

質問 1 4 の「学校は保護者と協力して学校運営をしている」については、昨年度より結果の値は下がってしまいましたが、児童、保護者とも 4. 3 以上の結果となりました。学校支援コーディネーターとも連携し、必要に応じて保護者の方にボランティアを呼びかけ、プールボランティアやお掃除ボランティアにご参加いただける等、たくさんの方々にご協力いただきました。くろもり会の会員も 500 世帯以上と、多くの方にご理解ご協力いただき、学校運営を行ってまいりました。また、日頃の感謝の意を込めて、夏休み中に校庭を開放して手持ち花火会を行う等してまいりました。今後も本校の実情として、共働きの世帯が多い等、地域の実態を考慮し、保護者と協力して学校運営をしてまいります。

(5) 学校からの情報の活用について<項目 2 2～2 4>

学校からの情報についてはスキットメールやホームページを活用し、発信してきました。ペーパーレス化を図り、保護者様にとって必要な情報が WEB 上で閲覧できるよう、学校だよりや学年だより等を送信し、スマートフォンがあれば見たい時にいつでも確認できるようにしました。学校で生活している児童の様子についても、適宜ホームページにアップしたり、児童に人気のくろもりチャンネルもホームページにアップしたりし、学校の情報を発信してまいりました。今後も学校からの情報を適宜発信し、より地域保護者に開かれた学校となるよう運営してまいります。

(6) 学校からの業務改善について <項目 25・26>

学校における働き方改革を進めることで、教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう努めてまいりました。多岐にわたる教職員の業務について、精査整理を図ることにより、教員が教材研究にかける時間や、子どもの状況等を適切に把握するための時間を確保することで、質の高い教育活動の実現と、業務改善を図ってまいりました。教職員の回答結果として、4.4を超える結果となりましたが、さらなる業務改善に努め、児童一人ひとりが自己存在感や共感的な他者理解が高まる学校生活を送れるよう、検討してまいります。